学習院大学新聞

発行所
学習院大学新聞社
〒171-8588 東京都豊島区目白1丁目5番1号
黎明会館316号室
電話 03(3986)0221 内線 2607

発行・編集人　矢島涼葉
年間500円

就職内定率 変わらず高水準

男子98・7％ 女子98・6％

本学キャリアセンターより、平成30年度の就職状況が公表された。本学全体の就職内定率は、過去18年間で最高を記録した前年度と同率の98.7％であった。

5月上旬、本学における平成30年度の就職状況が公表された。最終的な就職内定率は、前年度と同じ98・7％で過去18年間の最高水準を維持する。産業分類別に見ると、情報サービスが最多で、全体の2割以上を占めた。例年、内定者数の多い金融業界は、メガバンクの一般職の採用が大幅に絞られたものの、他の金融機関への広がりがあり、ほぼ横ばいの結果であった。また、内定企業の上位に公務員が多く入ったことが今年度の特徴である。

2019年卒の採用日程は、経団連の「採用選考に関する指針」により前年度と同様、3年次の3月1日から企業広報活動開始、4年次の6月1日から採用選考開始とされた。しかし、実際の企業の動きは早まる傾向があり、企業研究などの就職活動に関する準備が十分でない学生が少なくなかったようだ。一方で、例年に違わず、秋以降も多くの企業が採用を継続した。

今回の就職状況を受けて、キャリアセンターの大國マリコ部長は「ここ数年、企業の採用意欲は高い水準を維持しており、有効求人倍率も上昇傾向にあり、本学への求人企業数も増えています」と話す。また、今後の就職活動に関する見通しについて、詳しくお話を伺った。

「日本経済は堅調に推移しているため、2020年のオリンピック・パラリンピックまでは、企業の採用意欲は引き続き高い水準を維持するでしょう。その後については、今までのような景況感が続くという予測は難しく、通年採用の拡大や、政府が新卒採用スケジュールを主導するなど、企業の動きは今までとは異なってくることも予想されます」とコメントし、2020年以降の日本における経済や社会環境の不透明さを注視する。

続けて、「他人と比べるのではなく、何のために就職活動するのか、将来どうなりたいかなど、目的を明確にし、自身で活動を管理しなければなりません。キャリア選択にあたっては、新聞やニュース等を含め、常に社会に対して敏感に、できるだけ多方面から正確な情報を得る必要があります」と就職活動を行う学生に向けて警鐘を鳴らした。

本学キャリアセンターでは、年間を通じて様々なセミナーを実施している。最後に、大國部長は「学生に有効でかつ正確な情報を発信していきますので、就職活動に活かしてください」と学生へ呼びかけた。

学生の皆さんは、本学が提供するキャリア支援やプログラムをフルに活用し、先を見据えた行動を徹底してほしい。（齋藤美穂）

就職状況一覧

【過去5年就職率】

平成29年度	平成28年度	平成27年度	平成26年度	平成25年度
98.7%	98.4%	98.3%	97.8%	96.5%

【就職先・業種の傾向】（内定者の多い業種上位10）

	学習院産業分類	内定者数
1	情報サービス	207
2	銀行（銀行・信託・金庫・公庫等）	164
3	保険（生保、損保）	95
4	学術研究、専門・技術サービス	93
5	その他のサービス	91
6	卸売	90
7	教育・学習支援	84
8	運輸・郵便	81
9	地方公務	64
10	不動産・物品賃貸	62

リエゾンオフィス CEEJAに設置

本学の国際センターでは、短期派遣プログラム「学習院―アルザス　欧州日本学研究所連携プログラム（アルザスプロジェクト）」に参加する研修を実施している。このプログラムは、2013年度よりフランスのアルザス欧州日本学研究所（以下、CEEJA）の全面協力の下、毎年夏に行われている。本年、プログラムの拠点として、CEEJAに本学のリエゾンオフィスが設置された。

CEEJAはドイツに国境を接するフランス東部に位置しており、ヨーロッパにおける日本研究の拠点である。ここでは、日欧の多くの大学・企業等が年間を通じて様々なワークショップ等を開催している。本学が海外オフィスを設置することで、欧州における本学の知名度の向上が期待される。さらに、このプログラムで交流のあるストラスブール大学とは、現在、大学間協定を締結するための手続きが進められている。今後、リエゾンオフィスは、本学の情報を発信していく拠点としての役割も期待される。前述した定説から考えると、彼女はピアノが本当に好きではなかったのでは。しかし私は考える。好きという気持ちは瞬間的な「好き」を継続させ、行動を伴わさせるかに瞬間的な感情に過ぎない。いか、それは、いかに「飽き」ないかではないだろうか。好きになった対象に常に新鮮さを見つけられるか。そしてその発見に対して、自分がどれほど真っ白な気持ちでの挑めるか。自分自身の視点の置き方の問題だ。私は気付きたい。「好き」で居続けるために。（涼）

アルザスプロジェクトでの研究発表の様子

スポーツと健康を考える ～薬物乱用防止～

5月14日、特別講義『スポーツと健康を考える～薬物乱用防止～』が開催された。本学のスポーツ・健康科学センターと学長室保健センターが、学生を対象に保健教育の一環として主催する講演会であり、今年で三年目を迎える。今回は、元東京薬科大学教授の加藤哲太氏と、目白警察署生活安全課の泉伸一氏が講師を務め、薬物使用の危険性を学生に周知した。

講演の冒頭で、加藤氏は市販薬の乱用による健康被害について取り上げた。睡眠薬などの誤った使い方による体調不良で、医療機関を受診する人が近年増えているという。さらに、脳内における違法薬物の影響について、「人間の脳は、知識や経験を蓄えているもの。これを薬物は一瞬にして破壊する力を持つ」と訴えた。

後半では、実際に発生した事件を扱ったDVDを使い、講演が行われた。大学生が事件に巻き込まれる例としては、海外渡航の際、知らぬ間に薬物の運び屋となるケースがある。泉氏は講演の最後に「薬物は、私たちのほんのわずかなスキを突いてくる。一度手を出せば、一生身体は覚えている」と恐ろしさを強調した。

本講義を終え、学長室保健センターは「知識が豊富な講師の話を聞くことで、薬物の怖さを知ってもらえたと思います。〝断る勇気・立ち去る勇気〟を持ってください。来年度も多くの学生の参加をお待ちしています」とコメントしている。

本学には、他にも多くの保健教育に関する講義が設置されている。読者の皆さんもぜひ、積極的に受講してほしい。（横山浩人）

泉伸一氏（左）と加藤哲太氏（右）

明怒浄机

好きなことなら続けられるはず。誰もが一度は耳にする▼女の子がピアノを習い始めた。心地良い響きや音に憧れ、レッスンに通う。家でも、新品のピアノで自主練習。レッスンを待ち遠しく思いながら、胸が高鳴る日々。しかし、ある日、彼女は練習を辞めた。ピアノへの想いは変わっていない。大好きだからこそ練習をして上手に弾けるようになりたいはずだった。好きだから続けられるはずの習い事が、好きなまま、彼女は続ける意思をなくしてしまった。彼女は情熱を失ったのだ▼好きなことなら続けられる。前述した定説から考えると、彼女はピアノが本当に好きではなかったのでは。しかし私は考える。好きという気持ちは瞬間的な感情に過ぎない。いかに「飽き」ないかではないだろうか。好きになった対象に常に新鮮さを見つけられるか。そしてその発見に対して、自分がどれほど真っ白な気持ちでの挑めるか。自分自身の視点の置き方の問題だ。私は気付きたい。「好き」で居続けるために。（涼）

学習院 研究最前線

学問研究の「いま」

開発援助と世界秩序

法学部政治学科　元田　結花　教授

PROFILE
東京大学法学部卒業。同大学法学部政治学科研究科助手を務めながら、2年間イギリスのサセックス大学に留学。東京大学大学院法学部政治学研究科専任講師、北海道大学創成科学共同研究機構特任教授などを経て、平成20年度より現職。

◇　◇　◇

元田結花先生は開発学を専攻し、主に開発援助政策に関する研究を行っている。そこで今回、その研究について詳しくお話を伺った。

（取材・構成　藤森妃香）

専攻の決定に至るまで

高校時代に一年間のカナダ留学を経て、国際的な事柄に興味があった先生。大学では国際法のゼミに参加したが、国際法の議論を身近には感じられなかった。開発学を専攻するきっかけについて、「冷戦後、ODA（政府開発援助）の重要性が増した点、開発を巡る議論が政治・行政の領域に広がりを見せた点を考慮しました」と当時を振り返る。

途上国への介入のインパクト

開発援助が対象に及ぼす作用について研究を進めていた先生は、「アフリカへの理解なしに、世界的な議論は展開しにくい」と認識していた。アフリカが直面する課題を考慮し、ウガンダのエイズ対策への援助に関する研究を開始した。感染が拡大し、多くの人々が死に至っていたウガンダでは、治療薬の提供が緊急の課題だった。感染拡大の予防に努めたウガンダ政府の対応も評価されている。また、治療薬へのアクセスを提供する点でも、アメリカの大規模援助が大きな役割を果たした。しかし、このような外部の援助機関の介入方法について、先生は次のように指摘する。「ウガンダのエイズ対策の仕組みは、世界銀行が示したモデルに基づいています。国家機能から、患者としての振る舞いまで、援助を通じて外部からあるべき姿を強要する作用が見て取れます」。

今後の研究の展望

中国他の新興国の台頭で、伝統的な先進国と途上国の関係が変容している現在、開発学は転機を迎えている。特に、2015年に採択されたSDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けた活動を通じて、いかなる世界秩序が形成されるのかが、先生の現在の関心事の一つである。「根底にある考え方を理解していないと、SDGsが予期せぬ副作用をもたらす危険性があります」と懸念を示す先生。SDGsは、複数の政策領域間で連鎖的に変化を起こそうとしているため、個別の活動と、複数の政策領域間の動きをいかに結びつけて分析するのかが問われている。

教育者として

最後に、本学の学生へ「流行の言説に流されず、自分の言葉に責任を持てる人になってほしいです。勉学に励むのは当然ですが、好奇心を持って色々な経験もしてください」と語ってくれた。様々な経験を通じて想像力を養うことが、相手の考えや価値観を理解するための第一歩なのかもしれない。

転換期の開発学を探る

情報特急便

「選書ツアー」に参加しませんか？
日程：2019年6月15日（土）
場所：紀伊國屋書店　上智大学ブックセンター
時間：10時～12時30分
申込：大学図書館レファレンス・カウンター
受付時間：平日9時～16時30分
（11時30分～12時30分は休憩時間）
土曜9時～12時20分
申込締切：2019年6月8日（土）
備考：参加賞あり

5学園進学相談会
日程：2019年6月16日（日）　11時～16時
場所：サンシャインシティ（池袋）
備考：入場無料・予約不要

学習院大学新聞 紙面紹介

2 絶えない自動車事故 安全性を再考する

3 次の週末は映画館に行こう

4 実力で勝ち得た大勝

全国大会出場を目指す本学水球部。今回は上智大学と対戦し、追随を許さぬ怒濤の攻めで24―9のコールド勝ちを決めた。

成文堂
学習院店
03（3981）9718
〒171―0031

学習院大学新聞社
大新
@gakushuinpress
一緒に新聞を作りませんか？
新入部員随時募集中！
気軽に follow me!

≫学習院大学の学生の皆さんへ『個別指導』アルバイト講師募集≪
東証一部（サービス：4714）リソー教育グループ　スクールTOMAS

初めてでも安心！ 中高生の勉強サポートをしませんか？

仕事場は学校。学校と個別指導塾が融合したスクールTOMASでのお仕事です。

こんな人にぴったり
●教えることが好きな方。
●将来教師を志望されている方。
●学業とアルバイトを両立させたい方。

仕事内容
各教科の個別指導や質問対応を行っていただきます。得意科目1科目でもOK！

募集要項
大学1年生も歓迎！ 初めてのアルバイトは塾講師が安心！
職種　個別指導講師・チューター（アルバイト）
給与　講師：1,450円～／時　チューター：1,300円～／時 ※昇給有。
勤務地　都内の中学校・高校。※多数有。
勤務時間・曜日　10:00～21:00　※週1日～OK、時間応相談。
資格・経験　4年制大学生、大学院生。»得意科目1教科から指導OKです«
交通費　実費支給。
指導科目　国語・算数・理科・社会・数学・英語など。
»得意科目1教科から指導OKです«

応募方法　●お電話またはQRコードよりご応募ください。
0120-1417-11
10:00～18:00（土日祝除く）
スクールTOMAS
株式会社 スクールTOMAS　〒171-0031 東京都豊島区目白3-4-14 田中ビル3・4F

自動車と安全

問われる責任 ～自動車事故～

凄惨な交通事故のニュースが後を絶たない。運転免許証を取得できる年齢となった私たちは、それを所持するだけの責任と義務を自覚すべきだ。被害者にも加害者にもならないためには何が必要か、いま一度確認してみよう。

現代社会では、もはや自動車は便利で必要不可欠なものとして定着している。今日も道路に目を向ければ、幾多もの車がひしめきあっている。しかし、自動車は一瞬で人を傷つけてしまう凶器であることもまた、事実だ。平成27年度の統計によると年間交通事故死者数は約4千人となり、その大多数は自動車が関わっている。一度起こしてしまうと取り返しのつかない自動車事故。ここでは、加害者の賠償責任について扱っていく。

事故を起こした場合、加害者に問われる責任は3つある。一つ目は、民事上の責任だ。これは、相手に損害を発生させてしまった場合の賠償義務となる。

二つ目に挙げるのは、刑事上の責任である。例えば、過失運転致死傷罪、交通事故の当事者となり、相手を負傷させてしまった場合に課される。また、その交通事故の原因が交通違反にあるときは、その違反について道路交通法違反の罪が課せられる。それに加え、自動車運転死傷行為処罰法に基づく、危険運転致死傷罪が成立する可能性も高い。

三つ目に、交通事故を起こしたことに対する行政上の責任だ。相手の負傷の状態や過失の程度に応じて違反点数が加算され、運転免許証の停止等の処置が取られる。

次に、慰謝料と損害賠償の違いについて述べておこう。慰謝料とは、被害者が死亡した時に被った精神的損害に対する賠償のことを指すものだ。その額は、一家の支柱の場合や配偶者の有無などにより上下はあるものの、最低2千万円程度は課されることになる。

一方、損害賠償は、葬儀費用をはじめとし、死亡逸失利益という、将来労働等で得られたはずの利益を補償する責任も生じる。さらに、弁護士を雇う場合は、これらの合計額の10パーセントを弁護士費用として支出する必要がある。こうした額の合計が、結果的に億単位まで跳ね上がること多い。そのため、車の保有者すべてに加入が義務付けられる自賠責保険に加え、任意保険に加入することは欠かせない。上限のある自賠責保険だけでは、賠償額を賄いきれない可能性があるからだ。

自動車事故を一度起こすと生じる責任はかなり重い。先に述べたように、保険による補償が行われる可能性はあるが、それに甘んじることなく、大きな責任を負うことを考えるべきだ。

（門馬清登）

適度な休憩も事故防止につながる

大学生と免許 ～学内アンケート～

今回、自動車事故の特集にあたり、本学校内にて運転免許証の取得率についてのアンケート調査を実施した。一年生から三年生の学生122名からのアンケート結果はグラフの通りである。

グラフより、一年生の免許証不保持者数が、38名と一年生で免許証をすでに保有している14名を大きく上回る結果となった。

三年生に目を向けると双方22名ずつとなり、免許証の保有率が上がってきていることが読み取れる。免許証を取得した三年生に、取得しようと思ったきっかけについて質問してみると「車を運転できると就職活動に有利だと思ったから」（法3女）「身分証明書として免許証を持っていると各種手続きが楽になるから」（法3男）など、大学在籍中のことは勿論のこと、その先の将来を見据えて免許証を取得したという回答を得ることができた。

三年生の免許証取得者数に次いで多かったのは、二年生ではなく、一年生であった。取材を行った5月中旬時点で免許証を取得している一年生は、大学へ進学が決定し、春休みなどの長期休暇中に教習所へ行き、免許証を取得したケースが圧倒的に多いことがわかった。

それ故に、免許証を取得している一年生は、指定校推薦入学者や内部進学者に集中していることが調査により明らかになっている。

免許をすでに取得しだ学生へ質問をしたところ、取得までには平均して二、三ヶ月かかっていることがわかった。大学へ進学し、新生活が始まってまだ二ヶ月ほどしか経っていない一年生が免許取得に乗り出せないのは当然のことかもしれない。

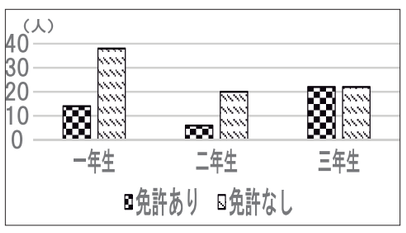
免許証を取得していない学生を対象に、将来的には免許証を持ちたいかどうか質問をしたところ、「できるだけ早いうちに取りたい。今年の夏に教習所へ通う予定だ」（日1女）や「大学時代にお金をためて社会人になってから免許を取りたい」（済2男）などの免許証取得に向け意欲的な意見を多く集めることができた。

その一方で「免許証がなくても電車やバスなどの公共交通機関が都内ではたくさんあるから、わざわざお金をたくさん掛けてまで免許証を取りたくない」（法2男）や「部活が忙しく教習所へ行く時間がまとめて取れない」（国3男）「免許を取得すると、遠出をする際に友人らに運転を強要されてしまい大変そうだから、大学生のうちに免許証は取りたくない」（済3男）など様々な視点から免許取得に対して消極的な考えを伺うことができた。

今回、たくさんの学生から意見を集めることができた。しかし、免許証を取らない理由の中に「事故」についての言及がないことに危機感を覚えずにはいられない。

（夏目拓真）

免許取得の有無に関するアンケート調査



記者の眼

食で自分を見つめなおす

食は、その時代の社会状況を知ることが出来る一種のツールではないだろうか。食生活を見れば、その時代の生活様式が伺えるように感じる。例えば、今、タピオカが空前のブームだ。タピオカ屋に並ぶ長蛇の列はもはや見慣れた光景である。現代において、人々は食というものに時間を費やす価値があると考えているようだ。

現代の食の需要の有り方

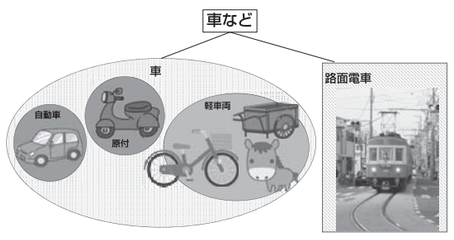
食の需要のあり方はここ数十年という間に、段階を経て大きく変化している。まず、戦後「空腹を満たす」目的の「第一需要」、次いでパーティーやギフトといった他者の食を介する「第二需要」だ。そして、昨今、新たな需要として空腹を満たすことだけを目的としない「第三需要」が私たちの食文化に受容されてきている。

第三需要で注目すべき点は、自分の胃袋を主軸としない点である。空腹を満たすというよりは、料理の盛り付け方といった外観、つまり視覚的な面に着目し、料理を楽しむということだ。動きを助長させる要因として、ダイエットによる胃袋サイズの縮小、SNSの普及などが考えられる。食は、ただ空腹を満たすものだけではなくなっているのだ。

しかし、最近「見て食を楽しむ」というよりは、発信する事に重きを置いてしまい、食べる事への楽しみを忘れている人が多いように感じる。実際、写真だけをとって盛り上がり、目の前の料理を放置している様子を何度か見かけたことがある。発信することに夢中になってしまい、食べ物を捨ててしまうといったフードロス問題が取り上げられていたことも記憶に新しい。

私たちの日常生活には欠かせない食。第三需要から生まれた新しい食文化を受容することで、私たちは新たな食の楽しみ方を見出した。しかし、その文化の陰にはSNSに関連する問題が多く存在している。食事とは本来、味やその場のコミュニケーション等、その空間での時間を楽しむべきではないだろうか。それがSNSに捕らわれがちになってその本質を見失ってしまっている。食は、冒頭にも述べた通り、その時代の社会状況を表すものだ。そこには、自分たちの生活も含まれる。食は自分の生活を見つめ直す契機になるのではないか。（史学科3年　渡邉紗英）

自転車と自動車



「自転車も、乗れば車の仲間入り」バスの中で、このような車内放送を耳にしたことのある人もいるのではないか。今回は意外と知られていない車とは何か、見ていきたい。

まず、一番大きな枠組みとして、「車」と「路面電車」をまとめて「車など」と呼ぶ。「車」には、自動車、原動機付自転車、軽車両が含まれる。自動車とはレールや架線の上を走らず、原動機で駆動する車のうち、原付、自転車などを除いた乗り物の事だ。

原動機付自転車、いわゆる原付は総排気量や最大出力が事細かく決められているが、ここでは小型のバイクといったイメージで良いだろう。詳しくは教習所で習って欲しい。

軽車両には自転車、荷車、リヤカー、そり、馬などが挙げられる。つまり、私たちが小学生の頃から乗っている自転車は「軽車両」であり、軽車両は「車」の仲間なのである。

最後に、自転車は車の仲間であるため、車道を走ることを推奨されている。しかし、左側通行が厳密でない歩道の感覚のまま、自転車で車道を走ることは危険である。車道を逆走しないよう、くれぐれも気を付けて欲しい。

（遠藤加寿）

後悔後先立たず 交通事故を考える

近頃、胸が痛むような交通事故をよく耳にする。そこで、交通事故を扱う目白警察署交通課に伺った。交通事故の加害者にならないためには、何に気を付けたら良いのだろうか。

まず、交通規則、交通ルールについて興味を持ち、知識を深めてほしいそうだ。それに加えて、運転者側は「大丈夫だろう」ではなく、「危ないかもしれない」という危険予測と警戒心を持って運転すること、自転車や自動車は一瞬で凶器になること、を自覚する必要がある。仮に事故を起こしてしまった場合、運転していた側は高額な賠償を命じられる等の責任を負う。無理をしてしまいがちだが、寝不足や過労等も事故につながる可能性がある。勇気をもって計画を中止するなど運転を控えることも大切だ。

では、もし事故を起こしてしまった場合は、どうしたら良いのだろう。

第一に、「直ちに車両を直近の安全な場所に停止させ、負傷者を救護し、危険の無い場所で待機してください。道路における二次災害を防ぐため必要です」とのことだ。

続いて、「日時、場所、負傷者数やケガの程度などを慌てずに110番、119番通報で報告してください。これらは道路交通法72条で義務づけられています」と教えてくださった。これは、自転車でも自動車でも「運転者」の義務だという。成人、未成年の区別もない。また、当事者同士で話し合い「大丈夫」と安易に判断して現場を離れることは法律上許されない。後日トラブルになる可能性もあるため、必ず、警察に届け出を出すことが大切だそうだ。

最後に、初めて高速道路を利用したり、長距離を運転したりする際に、留意すべきことは何か尋ねると、「高速道路では、一般道路以上の用心が必要です。例えば、車間距離を十分に確保する。無理に車線変更をせず、一番左の走行車線を走る。車線を譲るなどして、「あおり運転」のような乱暴な運転に関わらない。交通情報を参考にして、こまめに休憩をとる。天候の変化に注意する」などがあげられるという。

「心がけるべきで、重要なのは時間と気持ちに余裕を持つことです。注意1秒、怪我と後悔は一生です。これから免許取得を考える人は利便性と危険性は比例し、効率と運転者の義務を厳守し、弱者を守る、という優しい気持ちで安全運転を心がけてください。一人の人間として良識ある行動をお願いします」との言葉が身に染みた。私たち大学生も、運転することを免じて許された以上、安全に運転する義務があるのだ。

（西野昇吾）

和の慣習～「入梅」の楽しみ方～

6月と聞くと皆さんは何を想像するだろうか。私は紫陽花やカタツムリ、延々と雨が降り続ける情景を思い浮かべる。今回は6月の伝統的な暦について紹介する。皆さんは「入梅」をご存知だろうか。暦の上での梅雨入りの日であり、この日から約30日間が梅雨の期間とされているのだ。

この「入梅」というのは「梅の実が黄色く色づき梅雨に入る頃」を示しているとのことであるが、実際の梅雨入りとは異なる。ではなぜこのような暦が定められたのだろうか。江戸時代頃に遡ると理由がわかる。

昔は気象情報などが発達していない中、農家にとっては田植えの日を決める上でも梅雨の時期を知ることは重要だった。そのため目安として暦の上で入梅を設けたと考えられている。

さて、ここまで暦に目を向けてきたがこの時期ならではの楽しみもある。例えば梅酒。6月頃につければ8月頃には飲み頃になる。また梅雨に入ってまもなく、赤紫蘇の葉が店頭に並ぶ。これは6月から7月の梅雨時だけのもので、本来は梅を漬けるのに使うとのことだが葉を煮だして紫蘇ジュースにするのも美味しい。入梅鰯もこの時期ならではの旬の味だ。入梅鰯とは梅雨時の真鰯のことを指し、年間を通して最も脂がのって美味とされている。

雨が続くため、自然と家にいることが増えるこの季節。夏の始まりに想いを馳せながら、生活を少し豊かにしてみてはいかがだろうか。

（島崎あゆみ）

企画　遠藤加寿
構成・レイアウト　稲葉弥知朗
取材　島崎あゆみ　夏目拓真　西野昇吾　門馬清登　渡邉紗英

政治って、
「わかんない」
「興味がない」
「自分には関係ない」
・・・本当に？

選挙の投票率向上だけじゃない。
政治や社会にもっと関心を持ち、
日常の会話で当たり前のように
交わされる、
そんな社会を目指しています。

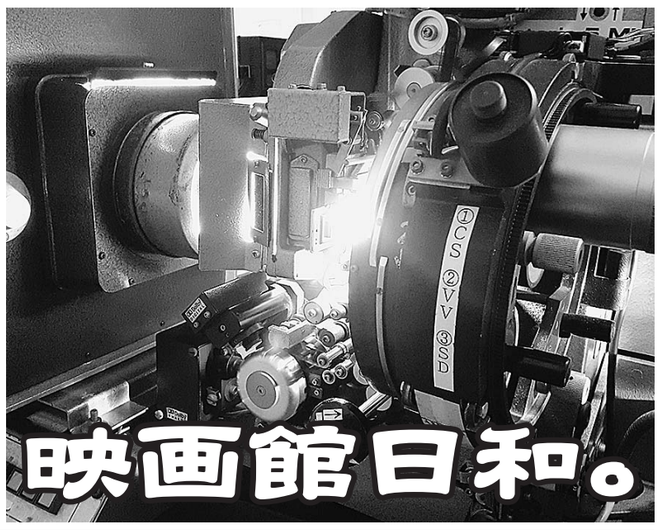
新メンバー募集中

○学生運営
「若者と一番近いキョリ」の学生のみで運営しています。

○政治的中立
メンバー個人の考えは自由。しかし団体として、特定の政党や政策を支持することはありません。

「若者と政治のキョリを近づける」
学生団体ivote（アイ・ヴォート）
まずは会議見学へ
ivote　検索
http://i-vote.jp
入口に立つあなたが好き。ivote

君を待つ



映画館日和。

あなたの好みに合う劇場は？

今や映画は手のひらの上で、いつどこでも見られるようになった。でもたまには誰かと、もちろんお一人でも、映画をちょっと贅沢に味わってみませんか。

映画鑑賞は人や時を問わず楽しめるものとして、我々に親しまれてきた。さて、映画館と一口に言っても様々な種類があるのはご存じだろうか。ここでは、そんな映画館のなかでも、シネコンとミニシアターについて今一度ご紹介する。

一般に、多くの人々が映画を鑑賞しに行く場所は、シネマコンプレックス、略してシネコンである。大抵の場合はショッピングセンターに併設されており、各スクリーンの客席数は80席から500席程度だ。イオンシネマやTOHOシネマズ、109シネマズなどが有名だ。集客数の見込める作品は、客席数の多いスクリーンで上映し、公開から時間の経過した映画や集客力が落ちた作品は、客席数の少ないスクリーンで上映する方式を取っている。ショッピングセンターとの双方の集客効果を狙ったシネコンは、日本では、1980年代後半から普及し始めた。そして、シネコンには其々特色がある。内装が洒落ていたり、独自の音響効果を用いていたり、更には座席の座り心地の良さを追求したりしている。見たい映画の特徴に合わせて、シネコン選びをすることは案外重要かもしれない。

続いて紹介するのは、ミニシアターだ。こちらは大手映画会社の傘下ではないため、上映作品やスケジュールは全て映画館側が行っている。客席数は200席程度で、1スクリーンで二本立て上映をする場所が多い。上映作品は映画館により全く異なり、各々に個性がある。大きな広告費が取れないマイナー映画等、その場所でしか見られない作品に出逢えるのが魅力だ。稀に、「カメラを止めるな！」のように当初はミニシアターでしか上映していなかったが、のちに大ヒットする場合もあるのが醍醐味だ。また、ミニシアターには名画座という、主に旧作品を上映する劇場もある。過去作品を安く、2本立てで鑑賞可能である。

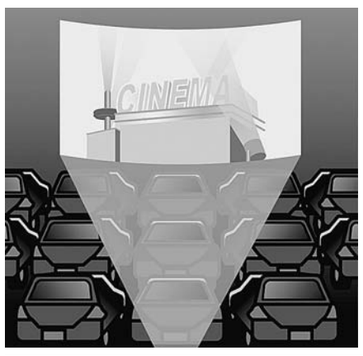
是非、これを参考に新たな映画の楽しみを模索してみてほしい。（吉川真由）

いつもの映画に飽きたら

「映画を観る」と聞いてどのような光景を思い浮かべるだろうか。ほとんどの人が思い描くのは、暗い映画館で椅子に座ってみる光景や、レンタルしてきたDVDを楽しむ光景だろう。

しかし、映画の上映方法には、特殊上映と呼ばれる映画鑑賞の常識を覆すような上映スタイルがある。今回は、特殊上映について詳しく紹介したい。

特殊上映の中にも様々な上映方法がある。その一つがドライブインシアターだ。観客は乗ってきた車で駐車スペースに入り、そのまま前方にある大きなスクリーンでフロントガラス越しに映画を楽しむ。音声はというと、駐車スペース近くのスピーカーやラジオから流れてくる。自宅のような感覚の車内で落ち着いた空間にいながら、自宅では味わえない迫力で映画を鑑賞することができるのが、ドライブインシアターの特徴だ。



ドライブインシアターは車社会であった1930年代のアメリカで誕生し、1950～60年代に全盛期を迎えた。日本でも車社会化が進むとともに、ドライブインシアターが設置されはじめ、1990年代にピークを迎える。しかし、アイドリングストップの推進や車離れなど、時代の流れとともに減少。現在残っている常設シアターは全国で一か所となり、容易に行くことは難しくなってしまっている。そこで、気軽に楽しめる特殊上映として紹介したいのが、応援上映だ。

応援上映とは、映画をライブのような気分で映画を味わうことができる、新感覚の上映スタイルだ。一般的な映画の上映は静かに鑑賞することがマナー。しかし、応援上映の最大の特徴は観客参加型の上映スタイルであること。観客はペンライトやうちわを持ち込んで、作品のキャラクターを応援したり、セリフに対して声援を送ったりしながら参加することができる。また、観客がコスプレをして鑑賞できるのも特徴だ。

従来の映画館マナーを覆す応援上映だが、なんでもありというわけではない。うちわやペンライトを振り回しすぎて他の観客の視界を遮ったり、作品を批判するような態度をとったりしてはいけない。応援上映のマナーを理解し「三種の神器」（ペンライト・うちわ・コスプレ）を用意してから挑戦したい。

一口に「映画を観る」といっても自宅鑑賞や特殊上映のように様々な楽しみ方がある。映画館や自宅で一人作品と向き合うのもいいだろう。しかし、たまにはドライブインシアターのように大画面で観てみたり、応援上映のように会場と一体になりながら観てみよう。すると、普段と一風変わった気持ちで映画鑑賞できるのではないだろうか。（佐野貴宏）

言葉選びの魔術師

『ウチら棺桶まで永遠のランウェイ』kemio著

» BOOK

あなたは本書の著者kemioをご存知だろうか。昨年のJC・JK流行語にもランクインしたほど、今注目のクリエイターの一人である。

本書は一章から四章にわたり、著者の過去の経験やSNSのこと、恋や人間関係など様々なことについて、全て口語体で書かれたエッセイだ。それゆえに、まるで著者が読者にその場で語りかけてくれているかのように感じられる。また、昨今、若者の活字離れが指摘されている中、そう感じた読者も多くいるのではないだろうか。

著者の言葉やその選び方は独特だ。しかし、どうして読者やファンは著者の言葉に惹きつけられるのだろう。それはきっと、言葉に嘘がなく、芯があるからだ。そして、語呂が良いので読んでいて楽しい気持ちになる。言葉が生きている。本書でも、著者が投稿しているYouTubeの動画でも、著者の言葉を浴びていると、言葉の持つ多様な力を再認識させられる。

本書のなかに、こんなフレーズがある。

「自分のスケッチブックには自分で描いて人のスケッチブックに落書きしないで」（p60～61）

他人の人生に口出しするな、とストレートに表現することもできる。しかし人生をスケッチブックに例えることで、表現が非常に柔らかくなっている。言葉というものは、たとえ同じことを言っていたとしても、伝え方や表し方によって様々な変容を見せるから面白い。

本書を読んだあと、思わずkemio節で友人への返信を打とうとしている自分がいた。あなたも著者の世界に魅了されてみないか。（華）

（『ウチら棺桶まで永遠のランウェイ』kemio著　KADOKAWA　税込1296円　2019年）

特集　美術展に行くために

アート日和　美術展こらむ

アート日和では様々な美術展を紹介してきたが、今回は原点に立ち返り美術展の選び方や見方を紹介していきたい。

まず、選び方についてだ。

美術館の展示には常設展と、普段は他の美術館にある作品が展示会のテーマに沿って集められる特別展の二種類がある。

おすすめしたいのは特別展だ。この機会を逃すとしばらくは海外に行かないと見ることが出来ない、という絵画もざらではない。

また、特別展の多くは一つの時代や国、絵画技法などテーマが絞られて展示される。

そのため、その時代の流行や作品に共通する特徴が見つけられることが多く、単体で見るよりもより造詣を深めることが出来るだろう。

しかし、行っても何を見ればいいか分からない、という方もいるだろう。

例えば、音声ガイドを借りてみるという手がある。多くは有料だが、一方で見るだけではわからない作品の裏に隠れたストーリーや作者のこだわり、時代背景などを知ることが出来る。

また、油絵であれば顕著にみられる絵の具の凹凸に焦点を当ててみたり、日本画であれば細かいが迷いのない線に着目してみるなども面白いのではないか。

どうしても絵画は飽きてしまう、といった際は宝石展など、少し変わった展示に行ってみるのも良い。街中やSNSにある広告などで気になったものをチェックしてみると想像以上に様々な展示が催されている。

美術館の展示はもちろん絵画や造形美術などを見るためにあるが、楽しみ方はそれだけではない。

日常にふと疲れた時、確かに過去にあった時代の息吹を感じ、いつもとは違う思考に耽ることで、作者の癖や自分なりの美術館の見方を編み出して見てほしい。（塚原優希）

文化に溺れる

早稲田松竹劇場インタビュー

高田馬場駅から早稲田通りを東へ歩いていくと、程なくレトロモダンな建物が見えてくる。早稲田松竹は若者の街高田馬場で1951年開館の老舗名画座だ。建物へ一歩足を踏みいれるとそこには、映画への愛が詰まった空間が広がる。今回は、早稲田松竹に勤める上田真之さんにお話を伺った。学生時代から映画が好きで映像系の学校を卒業した上田さん。年間の自主制作による映画作りを経て、先輩の紹介で早稲田松竹に勤めることとなったそうだ。

番組編成を務める上田さんがプログラムを組む際に気をつける事は、良い作品を掛けることだ。上田さんにとって良い映画とは、映画全体の些細な部分にまで、作品が目指している描きたい地点を感じることができる映画のことを指す。映画に対して観客が信頼を寄せ、視点を共有する。だが映画館で視点を共有するのは、映画の作り手とだけでない。隣りで同じ作品を鑑賞する見知らぬ観客もそうだ。映画の内容に呼応するように緊迫感のあるシーンでは場内には緊張感が流れ、ギャグシーンでは笑い声が漏れる。他の観客とのシンクロが起こり、一人では辿り着けない感情の動きがある。これは映画を映画館で見る体験の持つ魅力の一つだ。

早稲田松竹は若者に対して配慮した上で、今観たい映画を掛けていることが特徴だ。他の名画座と比べ、お客さんには若年層の割合が高い。また、劇場スタッフ全員がプログラムへ丁寧に向かっていくという姿勢が共有されている事も挙げられる。SNSやホームページを利用した番組紹介やメルマガによるコラム、場内の装飾や公開前の予告編など、観客が新たな映画との新たな出会いができるよう様々なアプローチがなされる。偶発的に新たな面白さと出会う事ができるのは、場を持つ映画館だからこそ感じることができる喜びだ。観た直後に理解する事が出来ない作品も心に留めておく事で後の処方箋になることがある。この試みに触れると、高い熱量を持ちながら活動を全力で楽しみ、おもしろがっていることが伝わる。中でも注目して欲しいのが、早稲田松竹オリジナルチラシだ。手に取ると思わずとっておきたくなるインパクト抜群のデザイン、映画鑑賞後に見ると異なった角度からの視点を我々に提示する。早稲田松竹に出向いた際にはぜひ手に取ってほしい。

最後に、大学生にどのように映画と付き合って欲しいかを訊ねると、自らの好きなものに熱中してほしいという答えが。好きなものに熱中し深掘りしていく。すると、その先で文化は繋がっていく。脈々と続く面白さや文化の連なりを楽しんでほしいという。その連なりの中には勿論映画があり、さらに早稲田松竹の存在があったならば嬉しいと話す。

若さと可能性に満ちた街高田馬場。そこには新たな世界の入口へ我々を導いてくれる、そんな信頼を寄せることができる映画館があった。（吉田仁）

早稲田松竹劇場、番組編成の上田さん

企画　吉田　仁
構成・レイアウト　吉川真由
取材　佐野貴宏
平　香月
塚原優希
鍔屋花奈

映画のバリアフリー化を考える

皆さんはバリアフリー映画というものをご存知だろうか。視覚や聴覚に障害のある人でも、鑑賞できるように工夫された映画のことである。

字幕や音声ガイド、手話通訳の設置により、映画をバリアフリー化することができる。この中でも、一番容易にできるのが字幕をつける方法である。しかし、字幕つきで劇場公開されている映画は増加しているものの、実際にはあまり多くはないのが現状だ。次に主流であるのが、音声ガイドを入れる方法だが、映画制作者側の協力や制作費用、劇場側の音声ガイドを聞くための環境が必要であるなど多くの課題がある。

そのような中、スマートフォンや眼鏡型端末などの情報機器を使う方法が最近試みられている。上映する作品の音声にあらかじめ電子透かしを埋め込み、それを専用アプリに認識させる。そうすると、イヤホンで音声ガイドを聞くことや、スマートフォンや眼鏡型端末に字幕を映し出すことが可能になる。これは、劇場側に特別な環境がなくても対応できるという利点があり、注目されている。

バリアフリー映画は、あらゆる人々に映画を楽しんでもらえる手段の一つだ。映画のバリアフリー化が進めば、多種多様な人々が映画を通して共感、共有ができ、魅力ある日々を過ごせることだろう。（平香月）

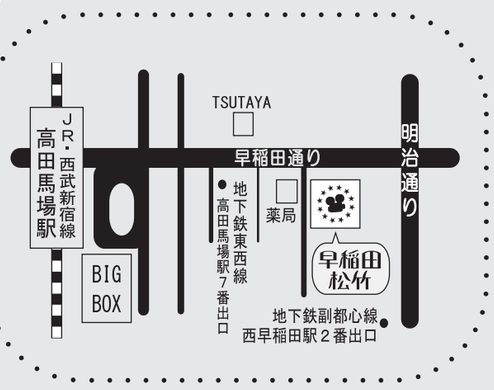
高田馬場の名画座映画館

早稲田松竹

新宿区高田馬場 1-5-16　TEL 03-3200-8968　www.wasedashochiku.co.jp

話題の映画や
在りし日の名作を厳選し、
二本立てで上映しています。

入替なし、外出可ですので
ご予定にあわせて
ご鑑賞いただけます！



FOLLOW ME
@wasedashochiku

入場料金（2本立て）

大人	1300円
学生（中学生以上）	1100円
シニア・身障者・小学生	900円
ラスト1本	800円

Gakushuin Sports

地力の差を見せつけ 名なしのコールド勝ち

水泳部水球部門

5月19日、専修大学生田キャンパスで関東学生水球リーグの第2試合目が行われた。本学は上智大学と対戦。前半は接戦を強いられたが、後半には終始攻めの姿勢を見せ、24－9でコールド勝ちを決めた。

強気の攻めを見せる山下選手（政2）（撮影・長森永守）

侮らず全力で

関東学生水球リーグの第2試合目が5月19日に専修大学生田キャンパスで行われた。本学の対戦相手は上智大学だ。

試合前、主将の吉田東基生選手（済4）は「全国大会出場を目標としています。年々自分たちでも上手くなっているという実感があるので、モチベーションを高く関東学生リーグを迎えられそうです。上智大学とは何度か練習試合をしたことがあり、勝てる相手だとは考えていますが、侮ることはできません。気を抜かずに試合に臨むつもりです。全国大会出場のためには、絶対に負けられない試合なので確実に勝ちにいきます」と熱く語った。

水中の格闘技

水球は、その激しさから水中の格闘技ともよばれる競技だ。第1ピリオド開始直後から選手たちの熾烈なボール争いが行われる。両チームともに強気の攻めを見せ、ハイペースに点を取り合う展開となった。しかし本学の怒涛の攻撃により、5－4とリードした状態で第1ピリオドは終了した。

第2ピリオドも拮抗した戦いが続くが、中盤にカウンターによる素早い攻撃で2点連取する本学。そのまま勢いに乗って攻めを続ける。終盤では相手チームの連携に対応しきれず、ゴールを許してしまったが、10－7と依然リードしたままで第2ピリオドを終える。

積極果敢

第3ピリオド、本学は開幕から果敢に相手ゴールへ攻め込む。中盤には、相手にシュートを放たれるも、キーパーの山田遼太朗選手（物4）が好セーブを見せる。その後、前線へロングパスを送り、相手ゴールへシュートを決めるという鮮やかな展開で、得点をもぎ取った。ここで流れを断ち切ろうとタイムアウトを取る上智大学。しかしタイムアウト明けも、本学は流れを渡すことなく攻め続け、さらに追加得点を重ねていく。力の差を見せつけ、なんと相手に一度もゴールを許さずに9連続得点を挙げた。19－7と大きく差をつけた状態で試合は第4ピリオドへ突入。15得点差でコールド勝ちとなるため、第4ピリオドも本学は攻撃の手を緩めず、24－9と大差をつけてコールド勝ちを収めた。

攻め込む三浦選手（教4）（撮影・鈴木汐里）

次戦も油断無く

試合後、吉田選手に話を聞くと、「前半では調子が出せずに接戦となってしまいましたが、後半からは相手を突き放し、無事コールド勝ちすることができたので良かったです。まだリーグ戦は始まったばかりなので、今回の勝ちに甘えることなく一層気を引き締めてこれからも試合に臨んでいきたいです」と答えてくれた。

今リーグでは第1戦目と第2戦目ともに快勝を収めており、好調の本学水球部。全国大会を目指して続けた努力が実を結びつつある彼らの今後にさらなる注目が集まる。（田中大貴）

From editor

一人っていいよね▼私は性格が明るく、友達も多い。私を知る人はみな、休日や空き時間は、さぞお友達と遊んでお喋りをしているのではと考えているだろう。ここで明かそう本来の私を▼もちろんフットワークが綿あめよりも軽いので、誰かに何か誘われれば100％行く。そしてそのまま予定を詰め込み、遊び続けるとふとやってくる。あの瞬間が。一人になりたい。普段人と接しすぎている反動かもしれない。ただ、この一人の時間に寂しさを覚えているわけではない。ひたすらに楽しんでいる▼特に最高なのは、ご飯。みんなで食べるご飯は美味しいとか食事は家族でするものだとか小学校で習った。そんなものは嘘だ。ご飯は一人で食べるととっても美味しい。食事の美味しさ、お店の雰囲気に集中できる。時間を気にせず、自由気ままに味わえる。最近はまっているのは一人お寿司。お高い廻らないお寿司に行く金銭的余裕はないが、カウンターに座り、流れるお寿司を眺め、のんびり注文。食べ物自体の美味しさに加え、誰にも干渉されない心地よさも相まって、食事の満足度が上がるのだ▼一人を好む私は、結局我儘な女なのだ。他人のペースに合わせたり、歩幅をそろえたくない。そして、自分勝手さを悪いと思っていない。人間は自己中さから一種の悦びを得られるのだろう。快感のための自己中は構わない。ただ、それを他人との関わりにおいて出してほしくない。満たされるまで、一人きりで身勝手さを出すべきだ。ここで再び勧めよう。一人〇〇。（涼）

全勝で見事昇格

男子バレーボール部

スパイクを打ち込む大西選手（済4）（撮影・稲葉弥知朗）

逆転に次ぐ逆転

昨年惜しくも昇格を逃した、本学男子バレーボール部。リベンジの場となった春季関東大学男子5部バレーボールリーグ戦では、1セットも落とすことなく全勝で悲願の昇格を決めた。井上徹主将（済4）は「この勢いのまま5部12チーム全体で1位を取りたいと思います」と語り、リーグ最終戦となる流通経済大学との順位決定戦に挑んだ。

第1セットは互いに譲らない混戦状態となる。大島正聖選手（哲3）の強烈なスパイクなどが功を奏して、一度は3点のリードを奪うも、徐々に追いあげられ12－15と逆転されてしまう。しかし、大神龍史選手（政3）や大島選手のスパイクで再び流れをつかむと、6点を連取し逆転。そのまま逃げ切り、25－20で第1セットを先取した。

攻め続ける姿勢

続く第2セットは出だしから苦戦を強いられる。相手に一度リードを許すと、一気に点差を広げられ、最大9点差まで突き放されてしまった。そのまま18－24で相手のセットポイントを迎えるが、ここから本学の底力が発揮される。相手のミスによりサーブ権を獲得すると、大西泰史選手（済4）の力強いサーブで相手の攻撃を崩し連続ミスを誘う。試合前の井上主将の「サーブで攻めることが重要」という言葉が思い返される試合展開であった。本学は連続6得点を奪い、デュースに持ち込むことに成功。そのまま勝利を掴みとりたいところであったが、サーブやスパイクのミスで25－27と第2セットを落とし、試合は最終セットまでもつれ込んだ。

勝負の第3セット、本学は井上主将のツーアタックや大西選手の強烈なスパイクでリードを広げ、好調な滑り出しを見せた。しかしその後、相手のピンチサーバーにリズムを崩され、瞬く間に1点差まで追いつめられてしまう。勝利が危ぶまれる中、松山克望選手（国1）のスパイクで流れを取り戻した本学は、順調に得点を積み重ね、25－21で見事勝利した。

試合後、大西選手は「第2セットは落としたものの、良い流れで最終セットに進めた」と振り返り、「後輩たちが3部に所属できるよう、秋季リーグでも昇格を目指したい」と次なる目標も語ってくれた。全勝という素晴らしい形で昇格を決めた男子バレーボール部。彼らの向上心は必ずチームを目標達成へと導くだろう。（石井亜樹）

ロッカールーム

本紙・塚田が辿る本学アスリートの軌跡

念願の1部

ソフトボール部 新井 啓一郎 さん（数4）

ボールを自在に操り、巧みなチームプレーで勝利をつかんでいくソフトボール。今回は、4年ぶりの1部昇格という栄冠に輝いた、本学ソフトボール部のエースである新井啓一郎さん（数4）に、自身の経験と、勝利までの軌跡を伺った。

まずは、新井さんのソフトボールとの出会い。どうして野球ではなくソフトボールを始めたのか。新井さんは「中学では、軟式野球部でプレーをしていました。しかし、入学した高校の野球部が強豪であったため、練習時間などの拘束時間が長すぎました。そこで、適度に勉強と部活動の両立が出来るソフトボール部を選びました」と話す。

ソフトボールとの出会いは偶然であった。

新井さんは、ソフトボールの面白さについて「野球は主に体格差が関係してきます。しかし、ソフトボールは、背が小さいことなど自分が持っている、一見ハンデに思えるようなことも、十分に活かして、活躍することが出来ます。そこから掴んだ勝利は、何物にも替え難いものです」と熱心に語る。

新井さんがピッチャーとして引っ張る、本学ソフトボール部は、久しぶりの1部昇格を果たした。しかし、1部昇格への道のりは、決して平坦ではなかったという。「我々の代が1年の秋、2部から3部に降格してしまったことがありました。この雪辱を果たすべく、次のシーズンには何とか入れ替え戦に勝利し、再び2部に昇格。チームの建て直しを図りながら、2部で懸命にプレーをしました」とその当時を振り返った。部の昇格というものは、決して簡単ではない。本学ソフトボール部が、難しい目標を成し遂げられた理由については「学習院大学のソフトボール部は、他の大学の部活と比べても、人数が少ないです。そのため下級生の頃から、部の運営や部の体制、練習などにも、とにかく積極的に参加する必要がありました。実際、下級生達がよく参加してくれて、部にまとまりが生まれています。そこが一番大きな理由です」と話してくれた。

新井さんの話通り、本学ソフトボール部は、かなり学生主体である。例えば、ほぼ全てのマネジメントを司る、学生監督というユニークな役職を設けており、部員に対して豊富な経験を与えている。

新井さんは昇格した部の今後について「強者揃いの1部リーグにやっとの思いで昇格できました。目下の目標は、とにかく5試合中、確実に2つ以上の白星を獲得して、1部に残留することです」と語った。

念願の1部リーグという大舞台に立ち、部員全員がやる気に満ちている本学ソフトボール部。様々な経験を糧としてきた、新井さんをはじめとするチームは、最高のステージでどんなプレーを見せてくれるのか。今後の彼らの活躍から目が離せない。（塚田智仁）

第89回学習院大学史料館講座
講演会
没後20年 辻邦生を語る

開催日 2019年6月29日（土）13:00開場
会 場 学習院創立百周年記念会館
※入場無料・事前申込不要
主催: 学習院大学史料館
協力: 中央公論新社 毎日新聞社 丸善ジュンク堂書店

PartI 13:30-15:00 拝戸 雅彦 キュレーター・美術史家
「二つの磁場から ――名前で語る人と語らない人」
ルイジベッチ現代美術館での日本現代美術展「先立未来」（2001）の共同キュレーションや、ソウル市立美術館でのアジアの都市単位の美術動向を扱う「city_net_asia」（2006）の名古屋セクションにも関わる

PartII 15:15-16:45 松浦 寿輝 作家・詩人・批評家
「辻邦生――天性の小説家」
『花腐し』（芥川龍之介賞）、『名誉と恍惚』（谷崎潤一郎賞・ドゥマゴ文学賞）、『折口信夫論』（三島由紀夫賞）、『エッフェル塔試論』（吉田秀和賞）、『明治の表象空間』（毎日芸術賞特別賞）『黄昏客思』など著書多数

当日、会場にて辻邦生資料の特別展示コーナーあり

1972年 辻邦生（47歳）

朗読会 声でつむぐ辻文学《廻廊にて》
辻邦生の命日を偲び、現役大学生による朗読会を開催します。『廻廊にて』は、辻の最初の長篇小説。1963年近代文学賞を受賞した作品です。
作品についても本学フランス語圏文学科 中条省平教授よりお話しいただきます。
日時 令和1年（2019）7月28日（日）
第1回 11:00～ 第2回 13:30～
会場 学習院大学史料館（東別館）
＊定員 各回先着順30名 ＊入場無料・事前申込不要

没後20年
記念出版
小説家で学習院大学フランス文学科教授であった辻邦生の没後20年を記念し、ビジュアル版ソフトカバーが刊行されます。講師の松浦寿輝氏の書き下ろしエッセイのほか、辻の旧制高等学校時代の習作、過去に開催した講演会の抄録なども掲載。
学習院大学史料館編（中央公論新社より刊行）
『辻邦生 永遠のアルカディアへ』
（定価本体 1800円＋税）